



慶應義塾大学ビジネス・スクール

リストラ社員の「昨日まで」と「明日から」

5

最近、日経新聞は、経団連の主張として「企業は『設備、雇用、債務』の三つの過剰を解消すべきである」という記事を報道した。そして多くの日本企業が、かつてほとんど手をつけなかった過剰雇用の解消に着手している。定年退職者不補充、新卒採用の抑制などの緩やかな施策から始まった過剰雇用の解消は、いよいよリストラという名の実質的な「解雇」にまで及んできた。

10

―― 昨日まで ――

アイエム電機株式会社 資材部長 守安肇

15

アイエム電機株式会社は、売上高約1300億円、社員数2000人の電気機器メーカーであった。アイエム電機の事業は、電子機器用の半導体と電源機器を2本柱としていた。電源機器というのは、電子機器に組み込まれた半導体を正常に作動させるために必要な直流電気を交流電気から変換する装置で、ほとんどの電子機器に内蔵されているものであった。しかしながら、ここ数年、電子機器メーカー側のコストダウン要求が一段と厳しくなっており、その影響によってアイエム電機の業績も非常に悪化していた。特に電源機器についてはそうで、アイエム電機が得意とする特注（カスタム・メイド）電源、すなわち顧客の仕様に基づいて設計開発を行う電源装置は、納期とコスト面で有利な標準（レディ・メイド）電源に市場を奪われつつあった。

20

資材部長の守安肇氏は先週53歳になったばかりであった。守安氏は地方国立大学の理工学部を卒業後、技術者を目指してアイエム電機に入社した。入社後2年間は工場で生産技術の仕事に携わった。その後、営業部に配属された。当時は急激な勢いで社会のエレクトロニクス化が図られていた時代であり、営業の経験が全くない守安氏ではあったが、持前の社交性と体力を活かして、かなりの実績を上げていくことが出来た。

25

守安氏は、20年余り営業の第一線として全国の支店や営業所を渡り歩いた後、42歳の時

30